

今後の公共交通網形成の視点

●今後の地域公共交通について（国が求めていること）

今後、地域公共交通の維持・確保・改善を図り、活性化再生法に基づく持続的な地域の足づくりを進めていくためには、①コンパクトシティの実現に向けたまちづくりとの連携を図ること、②地域全体を見渡した面的な公共交通ネットワークの再構築を図ることが求められます。また最近強く言われていることが、①住民の生活圏に合わせた区域を設定すること、②広域性を確保するため生活圏に関わる周辺自治体や交通事業者との連携を図ること、③地域の実情に合わせた運行システムを選択すること、④高齢者の移動手段を確保することに留意すること、⑤これらの検討や持続可能な仕組みを作るために十分な調査を実施すること、などです。ただし、国の要求レベルは社会状況の変化によって最近変わりやすいので、情報収集に注意が必要です。

●上記を踏まえて地域公共交通網形成計画づくりを進めるために

- ① 既存の公共交通の現況や住民の意向を十分調査すること、
- ② 調査結果に基づく公共交通の問題点・課題を理解し、対応策を検討すること、
- ③ 地域公共交通を支える住民、交通事業者、行政とで意識・情報の共有を図ること、
- ④ 計画の実現性、有効性を高めるために庁内の連携はもとより、国（関東運輸局）、都道府県などとの連携を図ること、などが必要と考えます。

弊社の業務のポイント

1 豊富な業務実績を持つ地域公共交通マイスターとの連携

各地で総合連携計画、網形成計画、再編実施計画の作成・支援・現場での指導実績を有し、関東運輸局の地域公共交通マイスターとして、関東運輸局と連携しながら各地で指導・研修実績があり、かつ都市計画や観光・地域ブランド、人材育成などの業務に長く関わり、国の動きに精通している専門家と連携します。

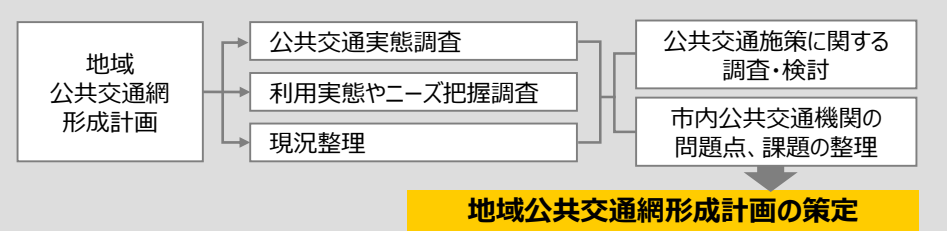
2 質の高い調査・分析から計画策定の支援か

全国各地で公共交通や市場調査などの豊富な調査実績と経験を活かし、常に地域の皆さんと一緒に考え、丁寧に寄り添いながら業務を遂行させていただきます。

3 持続的な地域公共交通が可能となる網形成計画づくり

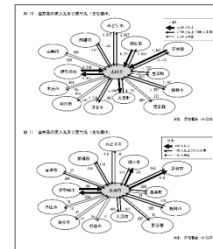
公共交通の実態把握と網形成計画の策定を行うだけでなく、将来像に沿って持続的な地域公共交通の維持・確保が可能となるような、地域公共交通網を再構築することを念頭に置いた地域公共交通網形成計画づくりに取り組ませていただきます。

作業工程

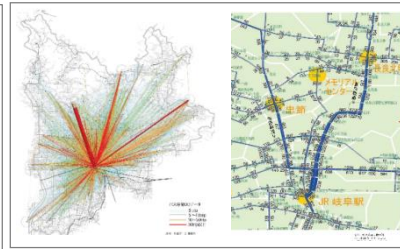


公共交通実態調査

- 現況データの収集・整理
- 交通機関運営状況データ及び利用実態データの収集・整理
- 交通事業者等ヒアリング調査



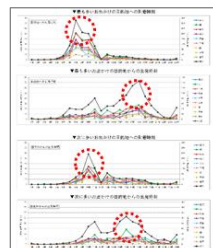
▲周辺市町への通勤・通学実態



▲バス利用者の利用OD・バス停区間別の利用者数

利用者ニーズ把握調査

- 市民アンケート
- 真に公共交通を必要とする公共交通利用者等の“生の声”を収集できる効率的・効果的な調査
- 地域住民座談会



▲時間帯別移動需要



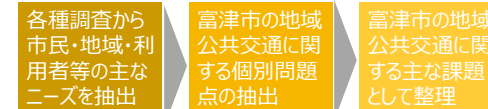
▲公共交通で行きたい施設（市内および広域）

公共交通施策に関する調査・検討

- 人口動態、生活インフラ、交通サービスなどの現況を見ながら、可能性のある公共交通施策について先行事例の調査をもとに検討します。
- 人口分布・施設分布・産業分布などの現況を見ながら、可能性のある公共交通ネットワークと交通拠点の配置と整備について、先行事例の調査をもとに検討します。
- 調査・検討にあたっては、先行事例の手法のみにとらわれるのではなく、地域特性や生活環境、観光資源の回遊性などの現況と将来性、可能性を十分考慮します。
- 広域性の観点から、フェリー・航路、鉄道路線、高速バスと地域内フィーダー交通との連携ネットワークの構築について、将来性、可能性を十分考慮します。

圏域内公共交通に関する課題の整理

- 問題点および課題の整理は、各種調査から個別に行い、個別課題を最終的に圏域の地域公共交通に関する主な課題として整理します。



地域公共交通網形成計画（案）の作成

1. 圏域の現状
2. 圏域の各計画との関係
3. 公共交通に関する課題
4. 計画の基本方針及び目標
 - 4-1. 基本的な方針
 - 4-2. 計画の区域
 - 4-3. 計画の目標
 - 4-3-1. 基本理念案
 - 4-3-2. 計画目標案
5. 将来構想（案）の検討
6. 目標を達成するための事業及び実施主
7. 交通網を形成するための交通サービスに関する運行計画（案）の検討
8. 計画達成状況の評価手法の検討
9. 公共交通の利用促進方策の検討
10. 網形成計画（案）の取りまとめ